

特 集 脊椎外科学の進歩

巻 頭 言

昭和大学医学部整形外科学講座

稲垣 克記

この度、昭和大学学会から脊椎脊髄病疾患の特集号を発刊する機会が得られました。関係各位には時代を見据えた最新医学の特集号企画に心から感謝申し上げます。腰痛や頸部痛を含めた脊椎・脊髄病の国民の有訴者数をみると、腰痛と肩こりが毎年上位を占め、内科的愁訴を含めても脊椎の愁訴が常にトップを占めます。また40歳代から60歳代の生産年齢層におけるこれらの愁訴に起因した経済的損失は増加傾向にあり、その対策はさらにその重要性を増しております。

一方、超高齢化社会を迎え、わが国における「平均寿命」と「健康寿命」の乖離が男女ともに10年近く存在することが大きな問題になっています。この乖離期間は要介護の期間ということになり、その予防という観点からも近年脊椎疾患の重要性がさらに増しているものと考えます。

昭和大学医学部整形外科学講座は2018年11月1日、わが国が世界に誇る豊根知明教授を筆頭に脊椎

外科センターが始動しました。本センターは、疾患の中でも特に脊柱の矯正が必要とされ最も高度な手術が要求される高齢者の側弯・後弯症、首下がり症や腰曲がり症、そして思春期の脊柱側弯症と戦っております。このような時代にあって、豊根知明教授、昭和大学脊椎外科センター長はじめ昭和大学4附属病院の教室の脊椎外科グループはセンター化と共に身の引き締まる思いで診療に当たっております。われわれは日本脊椎脊髄病学会の原点に立ち、わが国における脊椎疾患のさらなる学術研究、治療技術の発展と安全性の確保、そして新専門医制度を見据えた人材育成など、教室の使命達成に向けて粉骨砕身努力をしたいと考えております。この度、豊根教授のお計らいによりこのような時代を先取りした脊椎外科特集号を企画させていただきました。関係諸氏のさらなる御理解、御指導、御協力をお願いし序にかえさせていただきます。